

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察特殊報第2号について（送付）



和泊町のパパイヤで、*Paracoccus marginatus*（仮称：パパイヤコナカイガラムシ）の発生が認められ、特殊報第2号を発表したので送付します。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第2号

1 病害虫名 *Paracoccus marginatus*（仮称：パパイヤコナカイガラムシ）

2 発生作物名 パパイヤ *Carica papaya* L.（パパイヤ科）

3 発生確認状況及び被害状況

和泊町のバナナ栽培ほ場内に自生しているパパイヤで、葉や果実にカイガラムシ類の発生が見られ、果実のすす症状、葉の黄化、縮葉、褐変等が認められた（図1、2）。門司植物防疫所に本虫の同定を依頼した結果、*Paracoccus marginatus*と確認された。8月頃から発生が確認され、その後の調査で、同町内の別のパパイヤ及び与論町のパパイヤでも本種が確認された（11月18日時点）。本種の確認は、沖縄県に次いで2例目である。

4 本種の特徴

（1）被害

本種は主に葉裏に寄生するが、発生量が多いと葉柄や茎、果実にも寄生する。寄生を受けた植物体は衰弱し、葉の黄化、落葉、すす症状とともに未展開葉では縮葉症状を呈し、生育が停止する。

（2）寄主植物

好適な寄主植物はパパイヤであるが、広食性である。文献では、アセロラ、アボカド、マンゴー、コーヒー、ナス、バンレイシ属（アテモヤ、チェリモヤ等）、プルメリア、フヨウ属（ハイビスカス、ハマボウ等）等で寄生の記録がある。

なお、沖縄県ではアワユキセンダングサ（図3）、オクラ、キャッサバ、グアバ、クワ、テイキンザクラ、ハイビスカス、パパイヤ等で発生が確認（平成29年12月時点）されている。

（3）生態

雌成虫は、体長2.0～3.5mmで白いロウ物質で覆われており、卵嚢に100～600個の卵を産む。

（4）分布

原産地はメキシコ及び中米諸国と考えられており、海外では北米南部、アジア（台湾、中国等）、アフリカ等に分布する。

5 防除対策

現在、パパイヤのコナカイガラムシ類の防除で使用可能な登録薬剤はないため、以下の防除を実施する。

- (1) 寄生を確認した場合は、寄生部位を速やかに除去し、袋等に入れ密封し、適切に処分する。
- (2) 雑草であるアワユキセンダングサにも寄生するため、ほ場並びに施設内外の雑草等の管理も重要である。

6 留意事項

発生地域の沖縄本島や沖永良部島、与論島等から、パパイヤやその他寄主植物であるコーヒー、マンゴー、ハイビスカス等の苗木を導入するにあたっては、本種の寄生に注意する。

7 参考文献等

- (1) Crop Protection Compendium The world's most comprehensive site for information on crop basis. <https://www.cabi.org/cpc>. (2020年10月15日)
- (2) García Morales M, Denno BD, Miller DR, Miller GL, Ben-Dov Y, Hardy NB. 2016. ScaleNet: A literature-based model of scale insect biology and systematics. Database. doi: 10.1093/database/bav118. <http://scalenet.info>. (2020年10月15日)
- (3) 沖縄県病害虫防除技術センター (2018) 平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号
- (4) 沖縄県病害虫防除技術センター (2018) 平成30年度病害虫発生予察注意報第4号



図1 パパイヤ葉裏への寄生状況



図2 パパイヤ果実への寄生状況



図3 アワユキセンダングサ